

願いが届いた「今福線」

大畑 富紀

1. はじめに

今福線研究分科会はなんと6年目を迎え、初年度の現地踏査から始まりいよいよ今福線のシンポジウムの開催の年となった。

これまでは、マップの作成、佐野地区・雲城地区との交流、助成事業に伴うマップの公表、シンポジウムの共催と活動範囲が広がっていった。また、山陰中央新報では「活かせ幻のレール」として連載が始まった。さらには、今福線の遺構巡りツアーの企画・開催やテレビ番組からも脚光をあびるようになり、浜田のお宝 Best3 にも選ばれた。

今年度の成果としては「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウムの開催」があげられる。また、シンポジウムと併せた「日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会 in 島根」も開催された。シンポジウムをきっかけに県外の関係者の方とも交流が広がり、秋には大仏鉄道・五新線の視察も企画された。これからも各団体で今福線の遺構を巡るツアーや実行委員会による玉島商工会議所赤澤さんのツアーへの参加も予定されている。最近では地域活動が評価され、秋には第23回景観賞激励賞（まち・みどり・活動部門）を受賞した。ここでは、今年度の活動とシンポジウム開催に伴う活動成果やビューポイントの整備された遺構について報告する。

2. 今年度の活動内容

- ・2月7日(日) …… 今福線沿線自治会自慢大会（浜田市関係部署、地元自治会）
- ・5月11日(月) …… TVテレポート山陰「超不思議！おろち泣き橋とは」
- ・5月16日(土) …… 今福線研究分科会打合せ（技術士会）
- ・8月8日(土) …… 広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム
（実行委員会、関係者、技術士会）
- ・8月9日(日) …… エクスカーション（現地見学会）
- ・8月8日(土)、9日(日) …… 日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会 in 島根
- ・10月27日(火) …… しまね景観賞現地視察（技術士会）
- ・11月28日(土)、29日(日) …… 大仏鉄道・五新線視察（技術士会）
- ・12月5日(土) …… 今福線現地調査・忘年会（技術士会）

3. シンポジウム開催

昨年の2月13日の浜田市長訪問時にシンポジウム開催という大きな目標が掲げられた。8月8日について念願のシンポジウムが開催された。また、日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会 in 島根も同時に開催されることとなり、鉄道ファン×観光×土木技術×地域の4つの視点が一緒になった大きなイベントとなった。エクスカーションは大変好評で店員一杯となり、8月末にも追加で行われたそうだ。



写真1：パネルディスカッション



写真2：現地見学会

4. さまざまな成果

今回のシンポジウム開催をきっかけに遺構周辺の整備が進められた。主要な遺構の近辺には、研究分科会で作成した「幻の広浜鉄道今福線マップ」をベースに案内看板が設置された。また、移行周辺は伐採や植生等で整備され、とても巡りやすい環境となった。以下は数年前との状況を比較したものである。

(1) 4連アーチ橋

今福線のシンボリック的存在である土木学会認定選奨土木遺産銘板がある4連アーチ橋である。集中豪雨で被災した護岸が一度はコンクリートで復旧されたが、人工的で色彩もマッチしていなかった。そのため、現地の自然石や木材を利用し、植生と合わせて周辺の景観と調和するよう改善された。



写真3：被災前の護岸

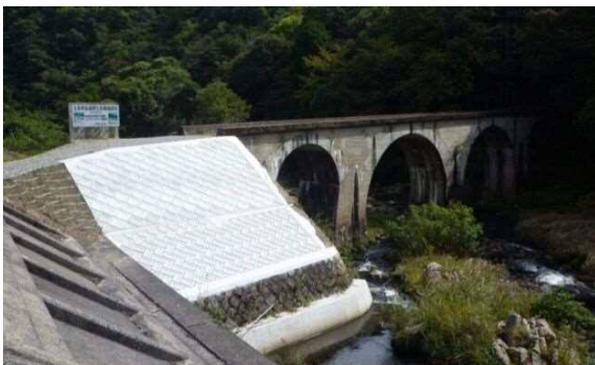


写真4：平成25年護岸復旧

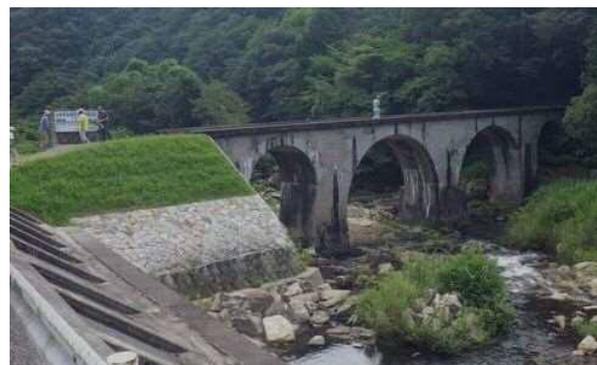


写真5：平成27年護岸状況

(2) 橋脚群

橋台、丸い橋脚、四角い橋脚が連なっている有名な場所である。橋台周辺の斜面が伐採され、橋台がはっきりと見えるようになった。

また、高台に上ると橋脚が緩やかにカーブしながら連なっているのがよくわかる。現地見学会でも山地部を走る線路のイメージが伝わる一番のビューポイントである。



写真6：木が茂った橋台周り



写真7：整備された橋台の斜面



写真8：トンネル坑口からの眺望



写真9：見晴しが良い橋脚群

(3) おろち泣き橋

いまでは一番有名な「おろち泣き橋」の周辺も伐採が行われた。不思議な音が体験できることから、音に影響のないことを確認しつつ作業が行われたそうだ。また、遠方からは部分的にしか見えなかった4連アーチがきれいに田園とマッチしている。



写真10：おろち泣き橋



写真11：整備されたおろち泣き橋



写真12：木に隠れたアーチ橋



写真13：4連アーチ橋

5. 今後の課題

【橋梁とのり面】

下府駅からすぐ近くに橋梁があったが、残念ながら道路改良のため橋梁本体は撤去された。現在はのり面の状態であるが、ほとんどが砂であったため、道路への影響や鉄道の軌道敷盛土を保護するために表土や植生工を講じることが必要と考える。



写真14：撤去前の床版橋



写真15：撤去された状況

【安全管理と遺構の保護】

下長屋トンネルまでの直線が続く鉄道の道であるが、安全対策のために第一下府川橋梁の手前に立ち入り防止柵が設置された。直線の線路敷が見渡せる絶好の場所であったために個人的には残念である。映画「天然コケッコー」のロケ地でもあっただけに、できれば第二下府川橋梁と同様に橋梁上部工で防護柵の安全対策を講じ、現在の景色は残してほしかった。



写真16：晩秋の鉄道の道



写真17：立入防止柵

【お宝の活かし方】

今年度は、シンポジウム開催という大きな目標を達成することができた。ただし、このシンポジウムが出発点であり、これからこのすばらしい遺構をどう活かし、どうやって保存していくかが課題であろう。なくすことは簡単であるが、浜田市と沿線自治体、さらには地域住民が一体となって取り組んでいく必要がある。

実際の列車は走らなかったが、見えない列車が光を浴び走りだした。今福線の遺構をどのように後世に残すか、自分自身できる範囲で貢献していきたい。

—以上—